

二の曲輪北馬出の門

「通り初め式」実施について(報告)

と き : 平成29年3月28日(水)
 場 所 : 諏訪原城跡 二の曲輪北馬出の門
 参加者 : 58人



復元された門の前に並び、テープカットで完成を祝う
 参加者=28日午後、島田市菊川の諏訪原城跡

薬医門復元、通り初め

島田・諏訪原城跡 住民ら完成祝う

島田市菊川の国指定史跡「諏訪原城跡」で進められていた薬医門

「二の曲輪北馬出(にのくるわきたうまだし)城門」の復元工事が完了し、28日、通り初め式が開かれた。城跡整備検討委員会によると、文化庁の復元検討委員会の許可を受けて中世の城門が復元されたのは全国初という。

諏訪原城は1573年に武田勝頼が遠江侵攻の拠点として築城し

た。今回復元された門は、徳川家康が攻め落とし、その後1580年ごろに建てられた。通路から攻め込んでくる敵に一斉に矢を浴びせた場所とみられる。高さは約3・5メートル、間口約2・2メートル。城跡北側の発掘調査で見つかった四つの礎石上に、城跡周辺のスギやクスノキを使って復元した。事業費は約2100万円。市は新たな観光資源として期待し、今後も見学路や転落防止柵などの整備を進めていく。

通り初め式には同委員会の三浦正幸、島田大学院教授や城郭研究家の加藤理文さん、地元住民ら約60人が参加し、テープカットの後に門をくぐって完成を祝った。三浦教授は「今後、全国で行われる城門復元の手本になるのでは。耐用年数は250年以上。長く愛してほしい」とあいさつし、近くに住む柴田里緒さん(五和小学5年)は「大勢の人が訪れるような場所になってほしい」と話した。

静岡新聞 平成29年3月29日(水)

「諏訪原城跡の門」復元

戦国の世に思いを巡らせて



復元された門をくぐる参加者＝島田市菊川の諏訪原城跡で

島田で通り初め式

戦国時代に武田氏と徳川氏が攻防を繰り返した島田市菊川の諏訪原城跡の門が復元され、二十八日に同所で開かれた通り初め式で、関係者らが完成を祝った。

諏訪原城は一五七三年、徳川家康を攻めるために武田勝頼によって築かれたとされる。遠州と駿河を結ぶ交通の要衝に位置し、牧之原台地の絶壁を利用して複雑な曲線の堀が設けられている。長篠の戦いで武田氏が衰退した二年後に、家康が攻め落とした。

家康攻めの際 武田勝頼が築く

復元されたのは「二の曲輪北馬出」と呼ばれる敵の侵入を食い止める地点の木組みの門で、高さ三・五メートル、幅二・二メートル。市の発掘調査で分かった礎石の位置や古文書の記述を基に専門家に依頼し、材料に地元のスノキなどを使った。

通り初め式には地元住民ら約六十人が参加。テープカットの後、門をくぐって戦国の世に思いを巡らせていた。復元にかかわった広島大学の三浦正幸教授と城郭研究者の加藤理文さんによる解説もあった。

(古池康司)

中日新聞 平成29年3月30日 (木)